

Title of Invention: Writing Implement

Publication Number: Japanese Utility Model Application Laid-open  
Sho 49 No. 32731

Publication Date: March 22, 1974      Priority Country : JAPAN

Application Number: Japanese Utility Model Application Sho 47 No.  
73259

Application Date: June 20, 1972

Applicant: K.K. SOGA SHÔTEN      Number of other Applicants(0)

Inventor: Kazuo SOGA      Number of other Inventors(0)

Japanese Cl.: 118 A 37; 118 A 511

Configuration:

The writing implement comprises: as illustrated in Figs. 1 and 2, a tubular shaft 3 accommodated in a holder barrel 2 which configures a writing implement body 1 wherein the tubular shaft 3 is so configured to move up/down during operation; a felt core 4 disposed at the distal end of the tubular shaft 3 so that volatile ink accommodated in the tubular shaft 3 can infiltrate therein; and a valve plate 5 disposed in the lower end portion of the holder barrel 2 and just below the tip of felt core 4 at its uppermost position, wherein the valve plate 5 is provided with a plurality of slits 6, as illustrated in Fig. 2. Furthermore, the writing implement is provided with a spring 7 at the exterior of the tubular shaft 3 wherein one end of the spring 7 is supported by an annular plate 8 within the holder barrel 2 while the other end of the spring 7 is arrestably supported by unillustrated known engaging means

so that the tubular shaft 3 can be resiliently moved up/down by pressing a projection 9 disposed at the upper end of the tubular shaft 3 during operation of the writing implement. The valve plate 5 is made of an elastic substance such as rubber, non-permeable synthetic resin, etc. In operation, as the projection 9 is pressed down, tip of the felt core 4 is urged to push through the slits 6 of the valve plate 5 so as to protrude from lower opening of the holder barrel 2 while further movement of the tubular shaft 3 is engaged to be stopped by means of an unillustrated arresting means. At the end of operation, releasing the arresting means by pressing the projection again makes the tubular shaft 3 to return to the original position through the valve plate 5 due to resilient force of the spring 7. After the operation, the slits 6 of the valve plate 5 closes so that the tip of the felt core 4 is isolated from environment so as to prevent the tip from drying-up.

Fig. 1

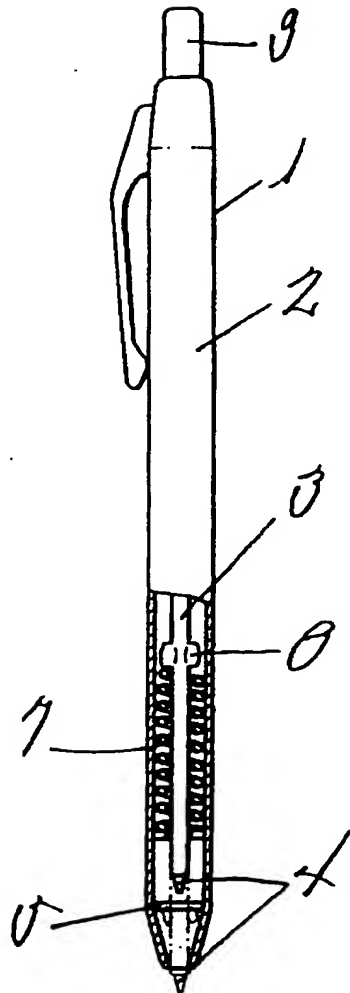
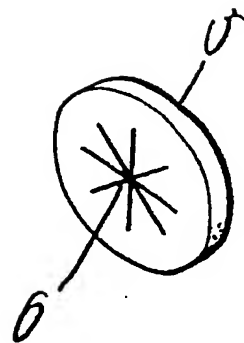


Fig. 2



⑤日本分類

118 A 37  
118 A 511

⑩日本国特許庁

# 公開実用新案公報

⑪実開昭49-32731

庁内整理番号 6548-25  
6777-25

⑬公開 昭49(1974)・3.22

審査請求 有

## ⑭筆記具

⑯実 願 昭47-73259  
⑰出 願 昭47(1972)6月20日  
⑱考 案 者 曾我 和夫  
大阪市南区安堂寺橋通4の23  
⑲出 願 人 株式会社曾我商店  
同所  
⑳代 理 人 弁理士 鎌田嘉之

## ㉑実用新案登録請求の範囲

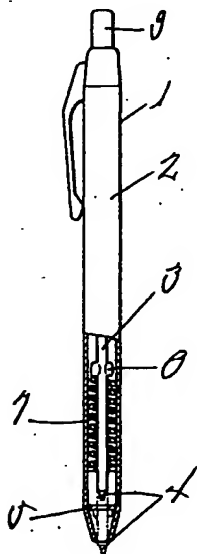
筆記具主体1を構成する把持基筒2内に操作時

に昇降する管軸3を組込み、この管軸3の下端に該管軸3内の揮発性インキが浸透するようフェルト芯4を装着し、該把持基筒2の下端部内で上昇停止時に於ける前記フェルト芯4の直下に弁板5を組込み、その弁板5に中心から外へ向く切込み6を入れた筆記具。

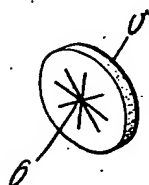
## 図面の簡単な説明

第1図は本考案筆記具の要部切欠き正面図、第2図は同上の弁板の拡大斜面図である。1……筆記具主体、3……管軸、4……フェルト芯、2……把持基筒、5……弁板、6……切込み。

第1図



第2図





(1,500円)

## 実用新案登録願

昭和47年 6月20日

特許庁長官 井 土 武 久 殿

1. 考 案 の 名 称

ビシ キ ク  
記 具

2. 考 案

オオカミナミクアントウシントオリ

大阪府大阪市南区安堂寺橋通4丁目23番地

ソ ガ カズ オ  
曾 我 和 夫

3. 実用新案登録出願人

オオサカミナミクアントウシントオリ

大阪府大阪市南区安堂寺橋通4丁目23番地

ソカシヨウテン

株 式 会 社 曾 我 商 店

ソ ガ カズ オ

代 表 者 曾 我 和 夫

4. 代 理 人

〒542 大阪府大阪市南区日本橋筋1丁目31番地

(3446) 鐘 田 嘉 之

5. 添附書類の目録

1. 明 細 書

1 通

2. 図 面

1 通

3. 願書副本

1 通

4. 委任状

1 通

5. 出願審査請求書

1 通 17 073259

49-32731-01

1

## 明 細 書

## 1 考案の名称

筆記具

## 2 実用新案登録請求の範囲

筆記具主体1を構成する把持基筒2内に操作時に昇降する管軸3を組み込み、この管軸3の下端に該管軸3内の揮発性インキが浸透するようフェルト芯4を装着し、該把持基筒2の下端部内で上昇停止時に於ける前記フェルト芯4の直下に弁板5を組み込み、その弁板5に中心から外へ向く切込み6を入れた筆記具。

## 3 考案の詳細な説明

本考案はフェルト芯を有する筆記具の改良に関するもので、従来この種の筆記具はインキが揮発性の為キャップを必要とし、所要時キャップを取り外して使用するものであつたが、ノック操作により出没出来るようにし、没入時にフェルト芯が外気に触れないようにしたものである。

即ち本考案は、筆記具主体1を構成する把持基筒2内に操作時に昇降する管軸3を組み込み、この

49-32731-02

## 2

管軸3の下端に該管軸3内の揮発性インキが浸透するようフェルト芯4を装着し、該把持基筒2の下端部内で上昇停止時に於ける前記フェルト芯4の直下に弁板5を組み込み、その弁板5に中心から外へ向く切込み6を入れたものである。

尚該管軸3は図示の場合その管軸3に外嵌状となる発条7の下端を把持基筒2の内周面環状板8で支承し、発条7の上端は管軸3の突出部9で掛合させ、以つてその管軸3に上昇復元性を附与する。又管軸3の降下時に於けるロックは既知の手段を応用する。

又弁板5はゴム板を使用しているが、通気性のない合成樹脂板等でも可能である。

尚図示中10はノックである。

本考案は以上の如き構成からなり、ノック10を押し下げることにより突出部9が発条7を圧縮し、管軸3の下端に装着したフェルト芯4は第1図の一点鎖線に示す如く、弁板5の切込み6を押し開けて貫通し把持基筒2の下端開孔から突出し、降下した管軸3はロックにより停止される。さら

## 3

に再度ノック10を押すことによつて管軸3はロックから外れて発条7の復元性により元の位置に上昇して停止する。

その際、弁板5は把持基筒2の下端から流通する外気を遮断してフェルト芯4が乾くのを防止する。

本考案は以上の如きものであり、ノック操作によつてフェルト芯を出没させることが出来るため、従来のフェルト芯を有する筆記具に比べキャップを必要とせず、ワンタッチで操作できる効果を有する。

又没入時は、弁板により外気に触れないように遮断されているので、フェルト芯が外気に触れて乾くこともない。

#### 4 図面の簡単な説明

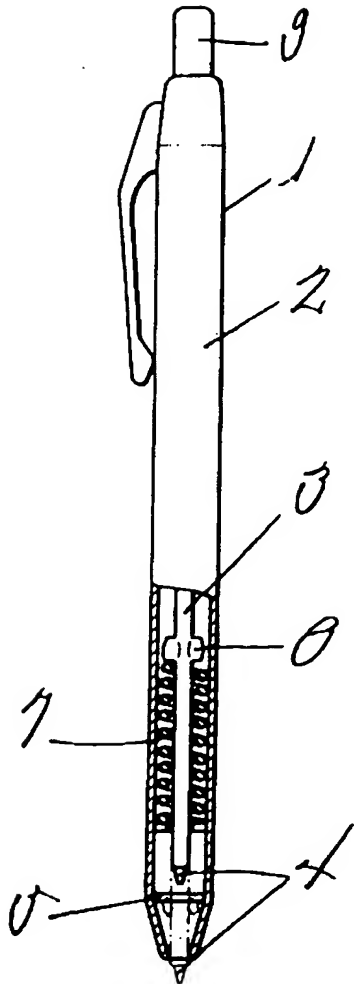
第1図は本考案筆記具の要部切欠き正面図、第2図は同上の弁板の拡大斜面図である。

1…筆記具本体、3…管軸、4…フェルト芯、2…把持基筒、5…弁板、6…切込み

1字加入



第1図



第2図

